

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

ぐに元気でいる

仮設にてアル中に人亡くなりぬ如何なる人も逝けば悲しも

返歌

仮設にて暮らす日々にも悲喜のあり送る人あり出会う人ある

2月19日(火曜日)の第5面に「投稿 先人の知恵に学ぶ津波対策」⑤ 一関市 名村栄治」が掲載されており、(高台移転と構造重視の防波堤)、藩政時代の土木技術関東流と紀州流)、(各港湾の実情に見合った防波堤)が掲載されている。

新沼志保子

「仮設はね貧乏人の品評会」とふ媪の心情わが胸を衝く

風の如き音たて梁を軋ませて地震の不気味さ警報鳴る夜半

返歌

警報の不気味さ響き揺れが来る夜半の仮設媪とかたる

芭蕉の奥の細道の「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」と人生の無常の中に、「風雅のまこと」を求めて旅をした芭蕉の世界が浮かんできます。さらに、蕪村の「五月雨や大河を前に家二軒」という水かさが増してきて洪水の恐れと対峙している世界も浮かんできます。

(歴史から学ぶ)

宇宙と地球の運行、地殻運動、生命の発生と、文化の発生、理と情を歴史のフィルターを通して学び、現代に活かそうという考えは胸に響いて来るものがある。ここに、芭蕉の句とセザンヌの絵が結びつくものがあるのではないかと思っ

ている。歴史は理と情をつなげ、経験のなから知恵を生みだす人間社会の基本財産である。ここに、「芭蕉の句とセザンヌの絵はつながる?」のかもしれない。

芭蕉の俳句とセザンヌの絵はつながるか?②

芭蕉の3句

古池や 蛙(かはづ)飛びこむ 水のおと

閑(しづか)さや 岩にしみ入る 蝉の聲

荒海や佐渡によこたふ 天河(あまのかは)

「この3句の奥にはセザンヌの円錐、円柱、球体の三つに代表される造形理論とつうじあうものがある?」

WHOジュネーブ本部に勤務していたころにいろいろな国を代表して働いているスタッフとの夕方5時以後の勤務の終わった後の自由なデスカッションを楽しんだ時の話である。

その時の話では「古池」と「蛙」と「水の

音」の三つが一つになる「妙」が、「閑」と「岩」と「蝉の聲」との「妙」と「荒海」と「佐渡」と「天河」との「妙」、これらの「妙」はそれぞれにべつの「もの」につながる動きをそなえているという話であった。

なんともわかったようで、わからない、話であった。しかも、これは、セザンヌの円錐、円柱、球体の三つに代表される造形理論と通じているとの話であった。

あれから、20年も過ぎた今になって、芭蕉の5・7・5が生み出す「妙」の世界とセザンヌの造詣論がふしぎにも心に響いて来るのである。

(仮設住宅) 4首

岩淵 綾子

総理夫人宮田仮設を見舞いにく優しき「は

舞いにく優しき「は

舞いにく優しき「は